

1 学校教育目標

- やさしい子（豊かな心で思いやりをもち、友達と協力し合える子ども）
- げんきな子（心身ともに健康で、明るく、実行力のある子ども）
- かんがえる子（自分から進んで学び、よく考えて行動できる子ども）

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○子どもへの教育活動を通して、児童・保護者・地域に誇れる学校 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが楽しく・のびのび・安心して過ごせる学校 ・基礎基本の確実な定着を目指して指導する学校 ・人間としての生き方・あり方を学び、思いやりのある学校
○児童・生徒像	○21世紀の変化の激しい時代を自らの考えにより、生き抜くことのできる児童 <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的学習内容を習得し、さらに自らの良さを伸ばさせる児童 ・他者を思いやり、人間味豊かな生き方ができる児童 ・基本的生活習慣をしっかり確立できる児童
○教師像	○教育公務員として、常に誇りと自覚を持つ教師 <ul style="list-style-type: none"> ・常に研究と修養に励み、児童の実態に即した教育を行う教師 ・地域・保護者の思いや願いを自覚し、家庭・地域と共に歩む姿勢をもち実行する教師 ・子どもから尊敬される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学力向上>

成果

- ・校内研究の質が高まり、授業力が向上し、児童が落ち着いて学習に取り組むようになった。

課題

- ・区学力調査における通過率は、国語 72.8%、算数 72%。達成基準を国語 7.2 ポイント算数 8 ポイントも下回った。区の学力調査やワークテスト等の情報を分析し、一人一人の児童がどんな学習内容につまずいているかを把握するとともに、放課後補充教室の指導効果を向上させること。また、そたち指導・夏季補充教室と有機的に関連させて指導の効果を高める。
- ・全校で共通化した授業規律をより徹底させる。また、教科指導専門員を活用し足立スタンダードのフル活用を図るとともに、若手研修を計画的に運営し、ベテラン教員の指導ノウハウを若手教員に伝え生かしていく。区小研には全職員が参加し、教科の専門性を高めていく。
- ・1年担任については、幼保小交流研修年2回を完全実施する。小中連携授業研究では、「育てたい児童像」を明確にしながら年6回以上の授業研究会を実施し、教科ごとに研修を深める。

<児童がより安全に、安心して学ぶことができる学校づくり>

成果

- 外部機関や学習支援ボランティア等と連携・活用し学習面・生活指導面で支援の必要な児童の指導を充実し、児童の学校生活に改善が見られた。

課題

- ・学年主任を中心に学年会を日常的に開き、児童の学習面・生活指導面での変容や課題を学年内で共有する。また、教員相互に知恵を出し合う中で、ベテラン教員の学級経営についてのノウハウを生かし、より安定した学級経営の実現を図る。
- ・学年会での情報共有・活用を基盤として、いじめと暴力0を目指す。生活指導全体会を年間3回以上、いじめ防止委員会を年間10回以上実施し、いじめの未然防止と早期対応に勤める。いじめ対応マニュアルをフル活用するとともに保護者との連携を図り、生活指導面のトラブル即時解決を図る。
- ・日常的なコミュニケーションスキルや教科の学習に困り感をもっている児童に、組織的・計画的な支援を充実するために、担任が対象児童についての個別指導計画を作成する。また、特別支援教室と連携を図り、専門的な視点からの分析を試みたり、他校の優れた実践を取り入れたりする。

<保護者・地域と共に子供を育む学校づくり>

成果

外部講師の活用による授業の実施やPTAとの連携によるマラソン大会を実施した。

課題

- ・特別活動部が中心となって、4年生以上で登校時間帯、南門でのあいさつ運動に取り組む。また、管理職によるあいさつ、PTAによるあいさつ運動と連携を図りながら運動を充実していく。
- ・宿泊行事も含め校外学習や外部講師を活用した授業のお実施を、各学年で充実する（全学年で合計30回以上の実施を基準とする）。また、体験を単元指導計画に明確に位置づけ、体験したことを子供の学びに十分に生かすように指導の手立てを工夫する。
- ・投力向上・長なわ・短なわ、外部講師を召喚する授業、外遊びの奨励については、より組織的・計画的に実施していくことが指導効果を向上させるうえで重要な課題である。3間（時間・空間・仲間）の設定による一年間を通した体力向上を心掛け、児童の体力とスポーツを楽しむ心の育成に取り組む。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	児童がより安全に、安心して学ぶことができる環境を確立する。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。	○	○	○	○	○
4	プログラミング教育			○	○	○

5 令和2年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)		コメント・課題	達成度 ◎○△●
国語科、算数科における基礎基本の定着（当初目標通過率80%）	到達度確認テスト85% 令和3年度目標通過率90%	7月 国 80.1% 12月 国 87.4%	算 79.7% 算 85.8%	休校明けの区調査で国算合計79.9%とほぼ目標通過率に達した。補習後再調査で未通過の13.4%の児童に対する更なる指導方法を検討する必要がある。	○
B 目標実現に向けた取組み					

新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	花丸教室 (放課後 補習教室)	全学年 算数・国 語 学力テ スト目 標値未 満 単元テ スト正 答率 70%未 満	毎 週 月・金 放 課 後 30分 (教科は 隔月交 代)	【指導者体制】 担任＋専科サポートメン バー4名 【具体的な取り組み】 SP表分析により個々の弱 点を明らかにし、演習を中 心に個別もしくは少人数 指導。 【使用教材】 区調査の過去問及び類似 問題プリント、ベーシック ドリル	学力定着度確 認テスト (10月2月実 施)	目標値通過率 85%	12月 国 87.4% 算 85.8% 2月(次年度学年) 国 75.8% 算 84.9%	・個々のつまずきに 合わせた補習を行っ たことで、既習内容 の定着が見られた。 ・つまずきが特に大 きい児童への補習方 法の見直しが必要で ある。	○
2 継続	サマース クール	全学年 算数国語 学力テ スト目 標値未 満 各学年10 名程度。	夏季休 業日中 の10日 間 各日50 分	【指導者体制】 学年の先生＋他学年の先 生＋専科サポートメン バー4名 【具体的な取り組み】 区学力調査やワークテ ストの結果を基に児童を選 定し、担任の少人数指導の もと進める。区学力調査復 習問題集を進めながら、前 学年の学習内容について、 復習をしながら、定着を図 る。 【使用教材】区学力調査復 習問題集・夏休みの宿題冊 子	区学力調査 再調査	目標値通過率 90%	新型コロナウイルス 感染症拡大により中 止	新型コロナウイルス 感染症拡大により中 止	—

3 継続	家庭学習 の手引き 発行・活用	全学年 全員	年3回 4月、9 月、1月	【具体的な取り組み】 家庭学習強化月間とし、 宿題の提出率を各教科で 確認する。自学自習を重視	宿題提出状況 調査	宿題提出率 90%	・7月、8、9月、1月 実施 ・宿題提出率 93%	・家庭への働きかけ として効果があっ た。今後は自学の内 容について指導を強 化していく。	◎
4 継続	夏季自習 教室	希望者 教科は自 由	夏季休 業中の 10日 間	【指導者体制】 学年・他学年の先生+管理 職1名+専科サポートメン バー4名 【具体的な取り組み】 低・中・高別に教室を用意 し、教員を配置する。自習 を進め学力を向上させる。	新型コロナウ イルス感染症 拡大により中 止	新型コロナウ イルス感染症拡大 により中止	新型コロナウイルス 感染症拡大により中 止	新型コロナウイルス 感染症拡大により中 止	—
5 継続	かけ算九 九補習	算数 第2学年 以上	年2回 個人面 談中	【指導者体制】 専科メンバー4名 【具体的な取り組み】 3年生以上の学年を対象 に、かけ算九九の未定着児 童を対象に専科教員が少 人数で指導にあたる。 【使用教材】 かけ算九九表・かけ算プリ ント・100ます計算プリ ント	かけ算定着テ スト	正答率 100%	新型コロナウイルス 感染症拡大により前 期の個人面談が中止 となり、機会がなかっ た。	新型コロナウイルス 感染症拡大により中 止	—
6 継続	校内研究	算数科	各学年 模擬授 業1本	【具体的な取り組み】 足立スタンダードを徹底 させ、模擬授業を行い講師 より指導助言を受ける。	・各学年研究 授業1本実施 ・協議会、講 師より指導助 言	年度末に研究 の成果と課題 を明らかにす る。	成果＝必然性のある 課題設定を工夫する ようになった。 課題＝共有の場面を 設定したが、双方向 のやりとりや内容の 深まりは不十分であ った。	・教職員の新学習指 導要領に対応した授 業改善への意識の高 まりが日常的に見ら れる。今後も研究を 生かした授業実践を 行っていく。	◎

7 継続	プログラミング教育研修	総合的な学習の時間等算数	半期に2回程度	児童用タブレットを用いたプログラミング教育	週案授業観察	教員の80%以上授業実施	教員の授業実施77.8%	・次年度は校内研修としてICT活用、プログラミング教育を取り上げていく。	○
---------	-------------	--------------	---------	-----------------------	--------	--------------	--------------	--------------------------------------	---

重点的な取組事項－2	児童がより安全に、安心して元気に学ぶことができる環境を確立する。
-------------------	----------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
児童にとって安全・安心で元気な学校生活を確立する。	保護者アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的な回答90%以上	保護者アンケート 「安全・安心に関する項目」 肯定的な回答87.7% ・いじめに関する項目 肯定的回答87% ・施設に関する項目 肯定的回89% ・児童の挨拶に関する項目 肯定的回87%	・いじめに関しては組織的に対応してきた。未然防止・早期発見、早期解決に向けて一層力を入れていく。 ・体育館床の全面張り替え工事、体育館の空調設備設置工事を実施した。事故無く工事を終えることができた。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、3密を避ける対策を徹底し、感染を防ぐことができた。 ・施設の老朽化が目立ち、危険個所は迅速に対応している。引き続き点検を徹底し、安全最優先で対応する。	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率100%	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ相談箱やHyperQ-U検査によるいじめの早期発見および早期解決 ・開発的教育相談的手法を取り入れ、自己肯定感の醸成を図りいじめ防止を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する項目 肯定的回答87% ・相談箱は随時校長が確認し、迅速に対応した。 ・QU調査を活用し支援を要する児童のケアを行った。 ・5年生全員を対象にSCのカウンセリングを実施し、自己肯定感の醸成を図り、いじめ防止の意識を高めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止委員会を定期的に行い、情報共有を行うことで、未然防止、早期発見に努めた。 ・いじめが発覚した場合は、臨時委員会を開き、組織的に早期解決に努めた。 ・小さな変化やきっかけを逃さないよう、情報共有に努め、更に児童理解を深めていく。 	○
安全・安心な学校の充実	学校施設の安全に関するアンケート:肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の施設点検 ・施設の不備に関する早期改修 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に関する項目 肯定的回89% ・体育館床面の全面張り替え工事、体育館空調設備設置工事を実施した。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、全ての蛇口の取っ手を対策用に変更した。 ・管理職、用務主事を中心に危険箇所の点検を日々行い、事務職員と連携しながら修繕を行った。 ・各教員は毎月の点検表を提出し、緊急以外の修繕・改修等に対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具の修繕、ドアの修繕等、児童の安全を最優先に計画的に修繕を進めた。 ・施設の老朽化により不具合が次々と生じるため、安全第一に引き続き注視していく。 	◎
あいさつの徹底	児童評価で元気よくあいさつができる児童80%以上	管理職・複数の教員・PTAによる校門での挨拶(毎日)4年生以上によるあいさつ運動(蒲原中学との連携を含む)来校者へのあいさつを各学年で指導	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートではあいさつ運動等の取り組みについて肯定的な評価が87%であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にあいさつができる児童が着実に増えてきている。 ・あいさつの効用を実感でききるような取り組みを一層充実させていく。 	○

体力向上	自己目標を80%の児童が達成	Beyond 2020の活用 遊びを通した体力向上	・児童の自己目標達成 走・跳を除き80%の児童達成	・休校が続いた影響が出たのか、走と跳に関する記録が落ち込んだ児童が見受けられた。 ・長なわ、短なわ、持久走旬間を設定し、改善を図る。	○
------	----------------	------------------------------	------------------------------	---	---

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者や地域と共に子供を育む学校づくりを進める。		学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的な回答90%以上	・学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」で肯定的な回答が84.7%にとどまった。	・行事がほぼできなかったことで、保護者の連携意識を高めることができなかった。 ・学校の状況がわかるよう情報発信していきたい。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者との共育体制の確立	授業参観、保護者会等の肯定的評価85%以上	・授業参観、保護者会の内容の改善充実	・授業参観は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため未実施。運動発表会、書き初め展、展覧会のみ公開。 ・保護者会1回、個人面談1回	・新型コロナウイルス感染症対策のため保護者の授業参観が未実施となった。 ・感染防止策を講じながら積極的に授業参観を開催していく。	○

PTAや開かれた学校づくり協議会を中心とした協働体制の確立	学校評価アンケート・家庭や地域との連携に関する項目：肯定的な回答85%以上	<ul style="list-style-type: none"> 各部活動への協力 各学年の活動との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「家庭や地域との連携に関する項目」で肯定的な回答が77%、わからないが15% PTAは運営委員会のみ発足し、他の委員会は活動休止とした。コロナ禍でも全保護者による朝の見守りは年間を通して行われた。 開かれた学校協議会2回実施 110周年実行委員会発足 	<ul style="list-style-type: none"> PTAは運営委員会を中心に学校への支援を継続してくれた。 地域は学校の取り組みに対して理解を示し、応援をしてくれている。 	◎
体験的学習場面や地域の教材化や地域の人材を生かした授業づくり	校外学習・講師による授業等体験的学習を各学年5回以上	<ul style="list-style-type: none"> PTA・開かれた学校づくり協議会との連携による学習場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 体験的学習の指導計画を見直し、より効果的な学年での実施に変更した。1年：ジャガイモの種芋植え付け2年：ジャガイモの収穫、サツマイモの苗付けと収穫 新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止した活動が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域学習において開かれた学校づくり協議会委員の協力を得た。 次年度は新型コロナウイルス感染症対策をしながら可能な範囲で積極的に実施していきたい。 	○
オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進	オリンピック・パラリンピック教育の組織的計画的推進の自己評価85パーセント以上	オリ・パラ教育の実践自己評価85パーセント以上	<ul style="list-style-type: none"> 5、6年生の総合的な学習の時間での学習は充実していた。 パラアスリートを講師とした学習を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各教科等の学習を通して、オリンピック精神に触れた学びをすることができた。 次年度は体験的な活動を通しての学びを増やしていきたい。 	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

<学力向上>

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】・4、5、6年生国語においては、通過率が75%程度にとどまっている。学年が上がるにつれて、文章の内容が複雑となり、内容理解に多くの時間を割かなければいけない児童が多い。また、文章から必要な情報を取り出す力はあるものの、必要な内容を的確に書く力を高めていく必要がある。

【対策】・授業では、文章全体の内容理解に必要な構成や展開を意識して読み取るよう指導する。さらに、要旨を端的に文章にまとめる活動を増やしていく。

・補習学習では、平易な文章読解と要旨をまとめる学習を行い、徐々に複雑な内容の読解を取り入れていく。

・個別指導では、学習支援員と学習支援ボランティアが国語と算数の時間に各教室に入り込みをし、個別に指導にあたる。

成果

- ・臨時休校が続いたが、全学年各教科の標準授業時数を上回り、当該学年の履修内容を修了することができた。(体育の水泳領域等、音楽のリコーダー等の実技等、家庭科の調理実習は除く)
- ・区学力調査における7月の通過率は、国78.5%、算82.1%であり、目標である80.0%を国語では下回った。この結果を受け、放課後補充教室の更なる充実を図り、12月の定着度確認テストでの通過率は、国87.4%、算85.8%まで上昇した。

課題及び解決の方向性

- ・学力ポートフォリオやSP表を活用し、児童がどんな学習内容につまずいているかを早期に把握し、個々の課題に応じた指導方法や教材を工夫・改善していく。特に、足立区推奨の学習ソフト「eライブラリー」を積極的に活用することで、前学年の既習内容まで遡ってつまずきを解消していきたい。また、放課後補充教室、サマースクール、そだち指導と有機的に関連させて指導の効果を高める。
- ・全校で共通化した授業規律をより徹底させる。また、教科指導専門員を活用し足立スタンダードの確実な定着を図るとともに、学力向上担当を中心に計画的にOJTを実施し、ベテラン教員の指導ノウハウを若手教員に伝え生かしていく。
- ・区小研には全職員が参加し、教科の専門性を高めていく。
- ・1年担任については、幼保小交流研修年2回を実施する。
- ・小中連携授業研究では、「育てたい児童像」を明確にしながら年7回以上の授業研究会を実施し、教科ごとに研修を深める。

<児童がより安全に安心して学ぶことができる環境の確立>

成果

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4、5月と休校措置がとられたが、6月の分散登校開始から滞りなく児童の新しい生活様式を確立させるために組織的に準備を進めることができた。3密を避けるためのルール作りや環境作りをしたが、児童登校初日に学校自作の資料で新型コロナウイルス感染症に対する正しい捉え方や行動について、全校児童に共通した指導を行ったことは、大きな成果と捉えている。
- ・外部機関との連携及び日常介助員や学習支援ボランティア等を活用し、学習面・生活指導面で支援の必要な児童の指導の充実を図り、児童の学校生活に改善が見られた。
- ・スクールカウンセラーを講師として研修を実施した。また、日常的にスクールソーシャルワーカーを活用し、適切な外部機関との連携を速やかに図ることができた。

課題及び解決の方向性

- ・新型コロナウイルス感染症対策は、今後も続くと考えられる。長期化しているが、全教職員が共通理解のもと、引き続き感染症対策に取り組んでいく。
- ・学年主任を中心に学年会を日常的に開き、児童の学習面・生活指導面での変容や課題を学年内で共有する。また、教員相互に知恵を出し合う中で、ベテラン教員の学級経営についてのノウハウを生かし、より安定した学級経営の実現を図る。
- ・学年会での情報共有・活用を基盤として、いじめと暴力0を目指す。生活指導全体会を年間3回以上、いじめ防止委員会を年間10回以上実施し、いじめの未然防止と早期対応に勤める。いじめ対応マニュアルを活用するとともに保護者との連携を図り、生活指導面のトラブル即時解決を図る。
- ・日常的なコミュニケーションスキルや教科の学習に困り感をもっている児童に、組織的・計画的な支援を充実するために、担任が対象児童についての個別指導計画を作成する。また、特別支援教室と連携を図り、巡回心理士を活用した専門的な視点からの分析を試みたり、他校の優れた実践を取り入れたりする。

<保護者や地域との連携を図り、教育活動を進める>

成果

- ・コロナ禍であったが、PTA運営委員が計画を立て、会員全員の朝の児童見守り活動を継続して実施していただけたことは、児童の安全な登校に大きく貢献していただいた。
- ・開かれた学校づくり協議会を開催し、コロナ禍での学校の現状を地域に伝え、協力を得ることができた。また、来年度の110周年記念事業のために実行委員会を発足し、実行委員長選出や方向性を決めることができた。

課題及び解決の方向性

- ・新型コロナウイルス感染症対策のため授業参観を実施することができず、情報発信も十分ではなかった。対策を講じながら参観の機会を増やし、保護

者や地域との連携を図っていく。

- ・保護者面談を年2回実施して保護者との意思疎通を図り、共育体制の充実を図る。
- ・地域行事等に教員が出向き、地域での子供の姿を知るとともに地域の方々との交流を深めていく。

<プログラミング教育を進める>

成果

- ・プログラミング教育を実施するにあたり、ICT環境の充実が急務であるが、教員用のタブレットと各教室の大型ディスプレイの設置により、教員の授業でのICT活用は、当たり前となっている。
- ・臨時休校に備え、全校児童がeライブラリーに取り組んだ。
- ・国のGIGAスクール構想を受け、家庭でのICT環境が整っていない児童にパソコンを貸与した。

課題及び解決の方向性

- ・プログラミング教育の充実を図るために、校内研修としてICTを活用した授業を各学年1回ずつ公開していく。
- ・ICTの技能を身に付けさせるため、全校で系統的な年間計画を作成し実施する。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

◎新型コロナウイルス感染症の影響で臨時休校から始まった今年度ですが、なんとか年度末まで教育活動を進めることができましたのは、保護者の皆様・地域の皆様のお力添えあってのことと感謝申し上げます。

入学式を始め、様々な計画を立てては変更の繰り返しでしたが、児童の安全安心を第一に考え、教職員一丸となって知恵を出し合い、感染症対策にも取り組んできました。授業参観の未実施や運動発表会の参観人数制限などは非常に心苦しいものがありましたが、保護者の皆様・地域の皆様のご理解をいただき教育活動を進めることができました。

来年度は感染症対策を講じながら、より一層「開かれた学校」を目指して参ります。

◎基礎的基本的な学習内容の確実な定着に向けて、区の学力調査や単元ワークテストの結果を分析して児童の学習のつまづきをより明確にし、個に応じたきめ細かな指導に取り組んでまいりました。今後も教員一人一人の授業力向上をベースとし、放課後補習教室の実施や、学習支援員・学習支援ボランティア・日常介助員などの人的支援も生かしながら、個に応じた指導を充実させてまいります。

◎安全・安心な学校を確立するために、いじめ防止マニュアルや不登校防止マニュアル等を活用するとともに、教育相談コーディネーター担当教員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを十分に活用し、問題の未然予防・早期発見・早期解決に向けて組織的に取り組んでいます。今後も未然防止を第一としながら、様々なケースに適した指導や支援を行えるよう、研修の充実や外部機関との連携を進めていきます。また、施設・設備の不備は随時点検を行い、迅速に修繕し、安全な環境の維持に努めます。

◎令和3年度は開校110周年となります。110周年記念事業のために既に周年実行委員会が発足し、地域の皆様にご協力をいただいております。地域に見守られ歩んできた歴史ある本校の節目の年として、児童に地域の皆様への感謝の思いを育むと共に、地域の一員としての誇りを感じられるような取り組みをしてまいります。ご理解とご協力の程、よろしくお願いたします。

(3) その他(学校教育活動全般について)

令和2年度は前年度に引き続き、「学力向上」「児童がより安全に、安心して学ぶことのできる環境の確立」「保護者や地域とともに子供を育む学校づくり」に取り組んだ。新学習指導要領の全面実施の1年目にあっただけなのに、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて「主体的・対話的で深い学び」の授業改善として大切な「児童同士の話し合い活動」が制限される状況であった。さらに、ICTを活用した授業作りの必要性も大いに感じるところであった。次年度は、これらの課題に全教職員で取り組み、より一層充実した教育活動を展開していく。

